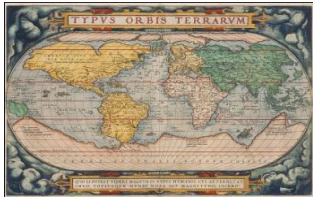
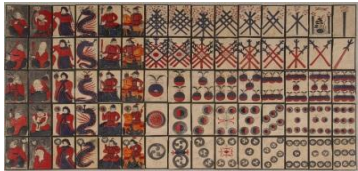
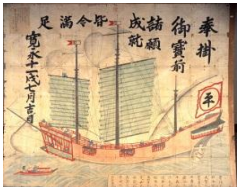
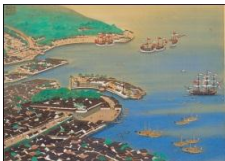
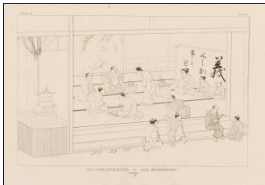
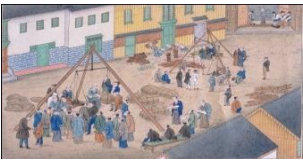
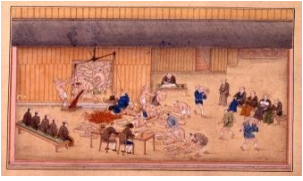


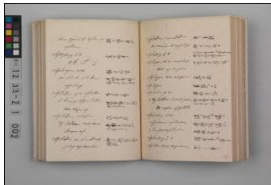
新しい社会 歴史 東京書籍〈中学校〉 展示・資料対照

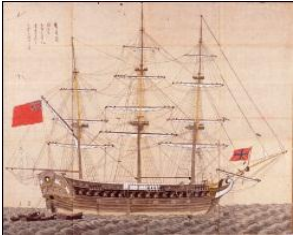
番号	資料名	画像	解説
○ヨーロッパ人との出会い			
C1	世界図		1570年、ネーデルランドのアントワープでオルテリウスが出版した地図帳『世界の舞台』に掲載された世界地図。天正遣欧少年使節が日本に帰国し、天正18年(1590)に豊臣秀吉に献上した地図が、オルテリウスの世界図と言われている。 オルテリウス／1570年
C2	アジア図		日本(IAPAN)の形は細長い大小の島と南に連なる島々で描かれ、ポルトガル人が初めて日本に入ってから30年近く経って入るが、正確な日本の地図情報はまだヨーロッパには伝わっていなかった。 オルテリウス／1570年
C3	「日本図」		天正遣欧少年使節がもたらした行基図によって、西洋人が持つ日本の地図の情報は格段に正確さを増していった。北海道(蝦夷)を除く本州、四国、九州、佐渡、対馬、五島といった大きな島はほぼ我々が知っている日本図に近づいている。 ティセラ／1595年
C4	南蛮人來朝之図		本屏風は左隻に南蛮船、右隻に南蛮時や港町の様子が描かれたもので、来航した南蛮人やキリシタンの風俗、また交易品を知る上で、格好の資料といえる。 慶長年間(1596-1614)
C5	「天正遣欧少年使節」伊東マンショ肖像画		和服姿に胸元が見えないように西洋式の襟付シャツを着た、当時15・6歳歳の伊東マンショがやや右側から描かれている。注釈には、1585年にグレゴリウス13世に謁見した豊後王フランシスコの大使、ドンマンショとある。 1585年
C6	メスキータ神父肖像画		少年使節を長崎からローマまで導いたメスキータ神父である。注釈には、1585年に日本からのインド人をグレゴリウス13世に謁見させたディエゴ・メスキータ神父とある。 1585年
○桃山文化			
C7	「泰西王侯図屏風」		大和絵風画法による山水または西洋建築を背景に、1610年以降に出版された銅版画の図像などを組み合わせた西洋の武人を描いている。1610年以降、セナリヨは長崎一帯で活動しており、ここで制作されたと考えられている。 1612-1614年(慶長17-19年頃)
C8	「ウンスンカルタ」		ポルトガルから舶来した「南蛮カルタ」から「天正カルタ」を経て誕生したのが、「ウンスンカルタ」である。当館のカルタは時代が下がるものと考えられる。

C9	南蛮人蒔絵硯箱		南蛮趣味の工芸品として日本人向けに製作されたもので、蓋裏に金の薄肉高蒔絵で、マントを羽織ったカピタン、帽子を持った従者と傘をさしかけた従者が描かれている。 桃山時代
C10	聖物箱		長方形の箱に蒲鉾型の蓋が載り、鍵や蝶番などの金具がついている。スペイン・ポルトガルの家具が原形で、それに日本の漆工芸が融合した典型的な南蛮美術の作品。 桃山時代
○貿易の振興から鎖国へ			
C11	清水寺末次船絵馬下絵		長崎の清水寺に奉納された絵馬の下絵。長崎代官 末次平蔵は朱印船貿易家としても活躍した。
C12	長崎港俯瞰細密画		江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしており、出島や新地蔵、唐人屋敷など江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしている。 浦川菊市
C13	長崎港之図		本図は長崎港の鳥瞰図であり、港湾部には出島や新地蔵、唐人屋敷があり、画面中央には停泊中のオランダ船や中国船、画面左上には曳航中のオランダ船が配されている。江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしている。 円山応挙／1792(寛政4)年
C14	八幡町邪宗門転宗旨改帳 元禄16年 転切支丹関係文書		長崎市中各町では一般住民とは別に、転び切支丹のための宗旨改帳を作成して奉行所に提出しなければならなかった。 木下潤蔵著 / 元禄11年
C15	制札		明治新政府が立てた制札。新政府は五榜の掲示で、江戸幕府の禁教政策をそのまま引き継いだ。1873(明治6)年に撤去。 太政官／1868(慶応4)年
C16	キリシタン制札		懸賞訴人によるキリシタン摘発は、1682(天和2)年懸賞金額等が定められ、「ばてれん」の訴人には銀500枚、「いるまん」であれば銀300枚の懸賞金と記された。将軍の代替わりに改めて発布されたと考えられる。 奉行/1711(正徳元)年
C17	「絵踏図」		シーボルト「NIPPON」の挿絵の一つで、長崎でお正月に行われていた踏み絵の様子を詳細に描いている。 シーボルト／1832-1882年
○鎖国下の対外関係			

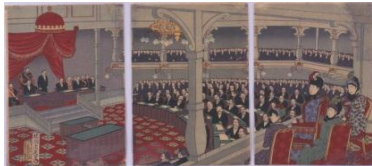
C18	寛文長崎 図屏風		右隻にイギリス船リターン号が描かれているので、寛文13年(1673)当時の長崎を描いたもの。同3年(1663)の大火でそのほとんどもを消失した長崎も、このようにものの見事に復興したのである。
C19	出島図		商館長レフィスゾーン(1845～50在職)刊の「日本雑纂」から嘉永5年(1852)頃の、人物や建物等の影からある日の午前中に出島を描いたものである。 川原慶賀／江戸時代後期
C20	「漢洋長崎居留図巻」		出島のオランダ商館の様子を中心に描かれている。バドミントンをしている少年やビリヤードをする商館員など、普段の商館員の生活が描かれている。出島は日本におけるバドミントンやビリヤードの伝来の地としても知られている。 江戸後期
C21	唐蘭館絵巻 商品計量図		出島の広場内での商品計量の場面。手前の袋は砂糖で、向こうの商品は染色に使われた蘇木(蘇芳)と考えられる。 川原慶賀／文政期頃
C22	唐蘭館絵巻 商品入札図		水門の前の日よけの下で、出島出入の日本人商人たちが貿易品の値踏みをしている場面。商品の入札は屋外で行われた。 川原慶賀／文政期頃
C23	唐蘭館絵巻 倉前図		日本の代表的な輸出品である銅の計量と箱詰めなどが描かれている。 川原慶賀／文政期頃
C24	唐蘭館絵巻 荷揚水門図		中国船が入港すると、新地沖に停泊して、積荷を小舟に移し、新地へと運んだ。新地は中国船の荷物を収容するため、1702年に築造された。
C25	唐蘭館絵巻 荷揚水門内部図		役人の監視のもと、荷物が新地に運び込まれる。水門の脇には探り番がつめ、厳重な監視が行われている。

C26	棹銅		
C27	「俵物」		
C28	唐人屋敷模型		
C29	風説書 嘉永4年 ～安政4年		
○農業や諸産業の発達			
C30	「鯨魚鑑笑録」		江戸時代の五島や唐津における捕鯨の様子を描いた絵巻物。絵巻には捕獲方から、クジラの種類と部位名、捕鯨道具、解体方法、漁後の宴会の様子などが記録されている。 生島仁左衛門／江戸後期
C31	捕鯨図 (シーボルト『日本』図)		シーボルト『日本』に描かれた捕鯨の様子 Ph. Fr. von Siebold／著
○都市の繁栄と元禄文化			
C32	年中行事絵 正月図		土間のかまどには昆布や橙、海老を飾った鏡餅が、壁には「幸木(さいわいぎ)」と呼ばれる縁起物の塩物の魚などがぶらさがっている。新年の客が来るたびに、この木に掛けていたものから料理して振舞ったという。 川原慶賀／江戸後期
C33	年中行事絵 雛祭り		庭にも桃の花が咲き、華やかな春の雰囲気にも包まれる。雛飾りは、現在のように一定の決まりはなく、各家庭で様々であった。上段立雛のお内裏様が紋付袴姿で書かれていることに注目。 川原慶賀／江戸後期
○田沼の政治と寛政の改革			
C34	レザノフ之肖像		ロシア使節レザノフは長崎に来航し、国交・通商を求めたが、幕府は鎖国を理由に通商を断った。

C35	長崎江魯西亜船渡来之節奏西船聞見録 文化元甲子年		ロシア使節レザノフは長崎に来航し、国交・通商を求めたが、幕府は鎖国を理由に通商を断った。 塚本政直／～ 1804
○新しい学問と化政文化			
C36	「解体新書」		著・ドイツ人クルムス原著、蘭人ディクテン蘭訳。杉田玄白・中川淳庵・石川玄常・桂川甫周。ほかに前野良沢も翻訳参加。吉雄耕牛序。成・安永3年。36枚の銅板解剖図は秋田藩士小野田直武が40面の木版画になおした。
C37	ドウフ・ハルマ辞書 天保4年／A		出島商館長ヘンドリック・ドーフが蘭日辞典を編集し、蘭学興隆の契機を作った。アルファベットAからZまで33冊。本書は刊行されなかったが、蘭学者の必読書として幕末期の蘭学塾には常備され、研究家は全文を筆写した。本書はオランダ通詞中山作三郎の自筆本である。 ヘンドリック・ドーフ著、中山作三郎写／天保4年(～1883)
C38	和佛蘭對譯語林 一		フランス語学習書。阿蘭陀通詞本木正栄らの手により、日本において初めて翻訳されたフランス語の文献である。
C39	諸厄利亜語林大成 草稿 巻一～巻四 一		阿蘭陀通詞本木正栄らが中心になって編集した日本初の英和辞典。 本木正栄他訳編／1814【文化11】年
C40	星座図・天球図		阿蘭陀通詞・本木家の旧蔵資料のひとつで、1700年頃のオランダで出版された天球図である。中央には北天の星座が1～6等級の星とともに描かれ、上部の左右には、当時オランダで浸透しつつあった太陽中心説に基づく小図が付されている。 A.ファン・ルフテンブルグ／C.ドンケルツ作／1700年頃
C41	沿海地図 (伊能小図)		伊能忠敬が幕府に提出した東日本地図。これは峰源之が江戸で天文修行中に、幕府天文方所蔵本から作成した写しである 伊能忠敬 峰源助写／1804 年(文化年間)
C42	シーボルト肖像画		川原慶賀の数少ない油彩画のひとつ。デ・フィレニューフェの肖像画と同様に、若き日のシーボルトの面影をよく伝えている。 川原慶賀筆／江戸時代後期

C43	医療器具		シーボルトが2回目の来日の際に、娘イネに与えた医療器具。ピンセット・メス・骨鋸など約20点セット。イネは日本最初の西洋産婦人科医となる。 19世紀中頃
C44	薬籠		シーボルトが2回目の来日の際に、娘イネに与えた医療器具。シーボルトがイネの家で患者を診察した際に用い、その後イネに与えたものと推測される。 19世紀中頃
C45	瀉血手術図		西洋人医師が外科手術をしている場面を描いたもの。瀉血手術とは高血圧や脳溢血の治療として静脈より血を抜く手術のこと。しかめ面の病人の顔を描くとき、慶賀はフランス石版画家ボアリーの作品を利用した。 川原慶賀／江戸時代後期
○外国船の出現と天保の改革			
C46	フェートン号図（崎陽録）		（裏）エゲレス國船圖」八月十五日入津」江戸表江参候写船
○開国と不平等条約			
C47	北亜墨利加洪和政治局上官真像之図		ペリーは日本の近代外交史上、最も大な役割を演じた外国人の一人で、肖像画の数も多い。本図もその代表的なものの一つである。ペリーの姿は庶民によって様々に描かれ、版画として広く流布した。 1854－1860年（安政年間）
C48	北亜墨利加人物ペリ像		ペリーは日本の近代外交史上、最も大な役割を演じた外国人の一人で、肖像画の数も多い。本図もその代表的なものの一つである。ペリーの姿は庶民によって様々に描かれ、版画として広く流布した。 1854－1860年（安政年間）
C49	異国船図		直接黒船を見て描いたというよりも、蒸気船を誇張して表現したものである。長さ75間、石火矢10挺、大筒25挺などと黒船の情報も書き入れられている。 江戸後期
○江戸幕府の滅亡			

C50	「坂本龍馬写真」		下野写真館(札幌市) *複写を製作か
○世界とつながる日本と文明開化			
C51	東京名所銀座通レンガセキ商家繁栄之図		明治の繁華街銀座を描き、明治初期の和洋さまざまな風俗をみることができる絵。明治の人たちは銀座といえばレンガ、レンガといえばきらびやかな西洋をすぐに連想したという。 3代広重筆／1874(明治7)年
○岩倉使節団と殖産興業			
C52	新橋鉄道蒸気車之図		明治5年(1872)東京と横浜のあいだに、日本ではじめて鉄道が開通した。そのころは新橋駅が起点だった。海の蒸気船のように煙をはきながら陸上を走る汽車をおか蒸気と当時の人は言った。 1873(明治6)年
C53	鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図		鉄道場所が東京に初めて出現したのが明治15(1882)年6月、新橋・日本橋間である。 この絵は開通直後の発行で、明治10年代の活気に満ちた街路風景が描かれている。 3代歌川広重／1882(明治15)年
C54	横浜海岸鉄道蒸気車図		満艦飾の商船と岡蒸気。雲の模様がかわっている。 3代広重／1874(明治7)年
C55	富岡製糸工場		1880(明治13)年
○立憲国家の成立			
C56	憲法発布上野賑		憲法発布は当時としては画期的なことで、政府官民ともにこれを祝った。お祭り好きの東京では、提灯行列など祝賀行事が行われた。この図はその時の様子を写したものである。 1889(明治22)年
C57	大日本帝国国会仮議事堂之図		第一回国会開会に先立って制作販売されたもの。国会議事堂は当初ドイツ人の設計で壮大なものになる予定であったが、計画を大幅に修正し日本人の手で木造の仮建築となった。明治24(1891)年焼失した。 1888(明治21)年
C58	大日本帝国憲法発布式場之図		大日本帝国憲法発布式の錦絵。 1889年(明治22年)

C59	国会会議之図		第1回帝国議会が開会されたのは明治23(1890)年11月29日のことで、この未曾有の出来事は開化絵の好画題ともなった。 1890(明治23)年
○産業革命の進展			
C60	絵葉書・三菱長崎造船所		明治政府から長崎造船所の払い下げを受けた三菱は、巨費を投じドックや造機諸工場の改修・新設をおこない、外国からも積極邸に技術を導入した。 1909(明治42)年以降
C61	絵葉書・(鐵都八幡名勝)製鐵所中央機關		八幡製鐵所は明治の一大国家プロジェクトとして計画され、ドイツの最新鋭の技術を導入し、鋼鉄を生産する日本発の銑鋼一貫製鐵所として操業された。1910年には国内鋼材生産量の90%以上をまかなっている。 1928(昭和3)年9月21日